

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成21年6月18日(2009.6.18)

【公開番号】特開2008-73536(P2008-73536A)

【公開日】平成20年4月3日(2008.4.3)

【年通号数】公開・登録公報2008-013

【出願番号】特願2007-268254(P2007-268254)

【国際特許分類】

A 6 1 B 5/055 (2006.01)

G 0 1 R 33/34 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/05 3 5 0

G 0 1 N 24/04 5 2 0 A

【手続補正書】

【提出日】平成21年4月28日(2009.4.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

円偏光された電磁波を送信及び／又は受信する R F 表面共振器であって、

中央ゾーンから半径方向に延びる複数のコンダクタ構造と、前記中央ゾーンを囲み、前記コンダクタ構造の電流についての帰線としての役割を果たす少なくとも 1 つのコンダクタループとを有し、前記少なくとも 1 つのコンダクタループと前記中央ゾーンとの間の半径方向の距離は、前記表面共振器に垂直に延びる平面において所望の放射特性が達成されるように選択され、

前記少なくとも 1 つのコンダクタ構造のそれぞれは、1 つ以上の平行四辺形のような形状を形成する 1 つ又は複数のコンダクタセグメントにより形成される、ことを特徴とする R F 表面共振器。

【請求項 2】

前記コンダクタ構造の長さは、前記垂直に延びる平面において実現される放射特性に依存して選択される、

ことを特徴とする請求項 1 記載の R F 表面共振器。

【請求項 3】

前記表面共振器の R F 磁場のための R F シールドが、前記表面共振器に本質的に平行に延びる平面において配置され、前記 R F シールドと前記表面共振器の間の局所的な距離は、実現される放射特性に従い選択される、

ことを特徴とする請求項 1 記載の R F 表面共振器。

【請求項 4】

少なくとも 1 つのコンダクタ構造及び／又は少なくとも 1 つのコンダクタループは、所望の放射特性を実現するために、それぞれのキャパシタを介して前記 R F シールドに接続される、

ことを特徴とする請求項 3 記載の R F 表面共振器。

【請求項 5】

前記表面共振器のコンダクタ構造及びコンダクタループと本質的に同じであって、前記表面共振器のコンダクタ構造及びコンダクタループに本質的に並列に接続されるコンダク

タ構造及びコンダクタループの更なる構成が設けられ、

前記表面共振器の少なくとも１つのコンダクタ構造及び／又は少なくとも１つのコンダクタループは、所望の放射特性を実現するために、それぞれのキャパシタを介して、前記更なる構成である前記コンダクタ構造又はコンダクタループに接続される、
ことを特徴とする請求項１記載のＲＦ表面共振器。

【請求項 ６】

それぞれのキャパシタは、所望の放射特性を実現するために、少なくとも１つのコンダクタ構造及び／又は少なくとも１つのコンダクタループに挿入される、
ことを特徴とする請求項１記載のＲＦ表面共振器。

【請求項 ７】

同軸コンダクタ構造により、前記少なくとも１つのコンダクタループが形成され、前記同軸コンダクタ構造のシールドの長さは、所望の放射特性を実現するように釣り合いがとられる、
ことを特徴とする請求項１記載のＲＦ表面共振器。